

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300529		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホーム山口あかり園		
所在地	山口県山口市黒川3363番地		
自己評価作成日	平成24年11月 1日	評価結果市町受理日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な環境の中で、利用者の皆様と職員が三食とも一緒に食事づくりをし、一緒に食事をしています。 食材は園芸活動で育てた野菜やできる限り地元産を使用し、地産地消に取り組んでいます。 ・入浴は夕食後に行い、安眠につながる様に支援しています。 ・同敷地内に病院・老人保健施設・特別養護老人ホーム・特定施設有料老人ホーム・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター等があり、医療・保健・福祉の連携のもと、サービスを提供しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では利用者が在宅で暮らしておられた時と同じような生活が継続できるよう支援しておられます。入浴はゆっくりと夕食後にして、安眠につながるようにしておられる他、三食とも利用者の好みに配慮した献立にそって職員と利用者が一緒に調理や片づけをして、同じ食卓を囲み、利用者は職員と懐かしい話や思い出の地の話題を取り入れた会話をしながら食事を楽しんでおられます。居室前にベランダがあり、洗濯物を干したり、取り入れたり、布団を干したり、一人ひとりのできることを活かして張合いのある生活が過ごせるように支援されています。法人では地域密着の活動に取り組んでおられ、地域と共催で開催する納涼ふれあいまつりには、地域の人や農協の協力を得て、家族も含め1200人程が参加しておられます。事業所は自治会の集会や、地域の神社の祭りに参加したり職員が川土手の草刈りをして交流の推進を図り、利用者も地域の文化祭に参加したり、法人内事業所の文化祭やデイサービスのボランティア行事などに参加し、来訪される保育園児や高校生、ボランティアセンターとの交流を楽しんでおられます。協力医療機関やユニット間の協力体制がとられており、地域と法人の連携の下で利用者がゆったりと安心して過ごすことができるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を事務室内に掲示し、全職員が共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所理念を事務室に掲示し、職員は勤務の前に目を通して共有し、理念に沿ったケアが出来ているか意識づけをして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と共催する納涼ふれあい祭りや地域の文化祭・お祭りへの参加、地域の保育園児との交流会等、地域行事への積極的な参加。また地域の馴染みの店や美容院等の利用も頻繁に行っている。地域の介護・看護養成校からの実習生の受入れや地域の集会に施設長が出席し情報交換を行い、地域との関係が深まるように取り組んでいる。	法人が地域と共催で開催する納涼ふれあい祭りには、農協の協力を得て販売する野菜の出品もあり、家族等1200人ほどが参加している。法人管理者が自治会の集会に年4回、地域の神社の祭りに年4回参加したり、職員が地域の川土手の草刈りを行って交流の推進を図っている。利用者は職員と一緒に、地域の文化祭に参加したり、保育園児との交流会に参加し、歌や似顔絵で交流している。高等看護専攻科、介護福祉士、社会福祉士の実習を受け入れている。併設施設に来訪した高校の管弦楽部の演奏を、一緒に鑑賞している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、自治会長や地域住民(利用者の家人も含む)の皆様からの地域の様々な情報や意見をもとに、地域の皆様が必要とされているテーマを取り上げ、情報の提供をさせていただいている。また敷地内にある地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に来られる地域住民の皆様の中で事業所見学や説明等が必要な家族の方には随時対応している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	施設長(管理者)・職員が評価の意義を理解し、評価結果の指摘事項については、見直し、改善に謙虚に取り組んでいる。	自己評価表を全職員に配布し、ユニット毎にまとめたものを介護副主任が取りまとめ、管理者が確認して自己評価としている。目標達成計画チェック表で改善点の実践について評価している。評価結果をもとに応急手当や救命救急への取り組みとして、職員1名がAED講習講師として認定を受け、職員や運営推進会議委員に講習を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、活動報告や毎回テーマを決め、意見交換を行い、参加者から出された意見をサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、現状報告、活動報告、外部評価報告、救命救急の講演、緊急時対応などテーマを決めた情報交換や、日ごろの疑問点などについて意見交換している。住民代表3人が参加し、納涼ふれあい祭りの協力や地元の催し物の情報を得ている。自治会や農協、老人クラブとの協力関係があり、老人クラブから敷地内の草刈りや剪定の協力を得ている。昼食を一緒に取るなどの機会をつくり、職員も運営推進会議での意見を聞く機会となっている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課には、諸手続き以外も相談をして助言を得ている。その際に情報交換を行い、協力関係を築いている。また敷地内にある包括支援センターとは、随時の相談にも対応していただけるように連携を密にしている。	運営推進会議の他、市担当課とは介護保険認定更新時や諸手続きに出向いたり、電話で相談するなど情報交換して、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアの実践を常に心掛けており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関等の出入口は基本的に施錠は行わず、利用者が自由に出入りが出来る様にしている。	マニュアルがあり、研修等で職員は正しく理解しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしておらず、利用者は自由に出入りしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に参加したり、関係資料等で理解・意識を深めている。施設内では、ケアの中で無意識のうちに虐待と思われる行為が行われていないか職員間で確認し合い、虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に参加したり、関係資料等で理解・意識を深めている。敷地内にある地域包括支援センターと連携し、必要時には利用者・家族への情報提供ができる体制になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定時に家族に重要事項を説明し、不安や疑問点の解消に努めている。入居後、説明した内容に変更等がある場合は、書面にて説明し理解・納得が得られるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制の説明を行っている。本人の思いは、日々の関わりの中で、本人の言動や様子等を把握し、記録に残し職員が共有しケアに活かしている。家族からの意見や要望は、面会時、電話、定期的に開催しているカンファレンスや運営推進会議等で吸い上げている。また年に1回、市の介護相談員に訪問していただき、本人・家族からの声を聞いてもらい運営に反映している。	契約時に苦情受付体制について説明している。家族の面会時や電話、運営推進会議参加時、カンファレンス時などの機会をとらえて意見を聞いている。意見を個別の対応や運営に反映させている。利用者から居室に鍵をつけてほしいという要望があり、家族とも検討して適切と考えられる鍵を設置した。苦情受付箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(月1回)前までに、ユニット長会議・ユニット会議を行い、利用者のケアや業務の見直し等についての意見交換の場としている。職員会議では、そこで出された意見等を検討し、サービスや業務の内容の見直しを行い、サービスの向上や働きやすい環境作りに努めている。	ユニット会議で職員の意見を聞き、ユニット長会議や施設長や事務次長が参加する職員会議で検討するとともに、隣接施設との合同運営会議に報告している。利用者の状態の変化に対応した勤務体制にしたいという職員の意見から、夜勤の二人体制や業務配分の見直しをしてユニット間の協力体制を作るなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況・心身の健康状態を把握した上で、必要に応じ面談を行い、要望・意見等の吸い上げを行っている。職員の意見を取り入れた勤務表の作成や休憩室の設置等常に最適な環境作りに努めているが、休憩時間については、利用者の状態により、十分な休憩が確保できない場合があり、ストレスを感じている職員もいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的に外部研修に参加できる機会を勤務の一環として提供している。受講後は、復命報告を行い、全職員が研修内容を共有できるようにしている。新任職員については、ユニットリーダーや先輩職員による指導を、新人個々人の能力に応じ実施している。	外部研修は、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。月1回、年間計画による内部研修を設けており、その機会を利用して復命研修をして職員間で共有している。新任職員は法人の研修を受け、1か月間ユニットリーダーや先輩職員の指導を受けている。資格取得の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口市の施設サービス部会の会議や研修に参加し、同業者との交流の機会を設けているが、参加できない場合もあり、他施設の見学や情報交換の場を設け、サービスの質の向上を図っていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に来園していただき、施設行事への参加や体験宿泊等の機会を設けたり、入居前の担当ケアマネや利用施設の職員、家族からの情報を得ることで、本人が安心して新しい環境に馴染んでいただける様に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と一緒に来園していただき、不安なことや要望等家族からできるだけゆっくりにお話が聞ける時間の確保に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に得た情報や入居時の本人の状態を把握することで本人に必要なサービスを見極める様努めている。必要に応じて他のサービス・施設の見学や説明等も行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護してあげている」という気持ちで接するのではなく、家族の一人として接していく様努めている。本人の得意なこと(野菜や花作り・調理・手芸等)を教えて頂き、互いに支え合い協力して毎日と一緒に過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に対し、家族と同じ気持ちで接し、常に家族に相談をしながら家族と共に本人を支えていくという意識を職員が持つように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な家族や知人がいつでも気軽に、本人に面会できる様な雰囲気作りに努めている。個々の生活歴を把握した上で、本人の馴染みのある場所や店にドライブや買い物等の外出支援を行っている。遠方の親戚との文通、知人との電話、入居前から利用していた宅老所(隔週)の通所支援等の支援に努めている。	家族の協力を得て家族旅行や外泊、法事や墓参りなどの支援をしている。地域の神社の祭り(平川荒神まつり)や地域の文化祭、公民館まつりへの参加、馴染みの宅老所や美容院の利用など関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士の関係を把握し、利用者同士と一緒に過ごせる時間・場所の提供をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、可能な限りの相談・支援に努めている。併設施設へ移られた場合は、職員への情報提供を積極的に行い、機会あるごとに利用者本人への声かけを行い関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報・日々の関わりの中で、本人の言動や様子を記録に残し、本人の思いや意向の把握に努め、共有している。また月1回行っているユニット会議で個々について職員が意見を出し合い、その人らしい生活が送れる様支援している。	日々の関わりの中で、意向や希望の把握に努めている。本人の様子や言葉を生活記録に記録し、申し送りで全職員が共有している。困難な場合は家族と相談しながらを本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に記入していただいた基本情報や日々の関わりの中で、これまでの生活や環境等を本人から聞き出し、記録に残し、共有し、把握に努めている。また入居前の担当ケアマネや他事業所等に情報提供をしていただき、これまでのサービス利用の経過等に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録、申し送り帳を利用し、生活状況・心身状態等の把握に努めている。有する力については、定期的に行われるカンファレンスやモニタリング等で「できること・できないこと」を家族に伝え、確認して、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議や6ヶ月に1回のケアカンファレンス(本人・家族参加)、3ヶ月に1回のモニタリングを通じ、それぞれの意見や思いを反映した介護計画を作成している。本人の状況に変化が生じた場合には、随時、本人・家族等と話し合い、見直しを行っている。	本人や家族、主治医の意見を反映させた介護計画を作成し、3ヶ月に1回モニタリングをし、6ヶ月に1回本人、家族が参加するケアカンファレンスをして、1年ごとに見直しをしている。状況に変化が生じた時はその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容・健康状態(バイタルチェック・排泄状況・食事摂取量等)等を記入した個別のケース記録を共有し、実践や介護計画の見直し、または体調不良時の受診等にも活用している。ケアプランに対する評価を担当職員が月末に行い、職員間の情報の共有を図り、見直し等に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応や外部医療機関への受診の付き添い等、本人・家族の状況により柔軟な対応が出来る様心掛けている。必要に応じて同敷地内にある他施設の各分野の専門職に助言・応援等をしてもらえるよう、常に連携を取り、柔軟な支援に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児交流会や公民館祭りへの参加、地元スーパーや美容院の活用、家族同伴での美術館への外出等、一人ひとりが暮らしを楽しむことができる様支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内の協力医をかかりつけ医とすることを、本人・家族が同意しており、月1回の往診・年1回の健康診断等定期的な受診を行っている。また緊急時には、日中・夜間とも適切な医療を受けられるように支援している。協力医以外の受診は家族に協力を求めながら行い、その際本人の病状等を要約したメモを当施設で作成し受診に役立てている。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の往診や年1回の健康診断を受けている。その他の医療機関は家族と協力して受診支援をしている。夜間や緊急時は協力医療機関との連携体制ができており、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昼夜を問わず気になることがあれば、協力病院の外来・担当病棟の看護職員に相談し、指示をもらうことができる。利用者の状態により、往診や緊急入院対応等をする場合もある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療できるように利用者情報を病院に提出している。病院でのカンファレンスへは、家族・病院の了解の上参加し、早期退院に向けての協力を努めている。 また月1回開催される併設機関との連絡会議に参加し、病院関係者との関係づくりを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、契約時に家族に事業所の方針を説明し、同意の上共有している。実際に重度化した場合は、状態の変化がある度に家族・主治医、関係者等と話し合い、方針を共有しながら支援に取り組んでいる。病院への入院・他施設への入所も含め支援している。	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合はその都度、家族や医療関係者などと話し合い、入院、退院を含めた方針を共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリはっとメモや事故報告書の記録をもとに、月1回行われる隣接施設との合同事故対策会議等で改善策等を検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。救急蘇生法の研修・AED講習会への参加、ストレッチャーの使用法に関する勉強会等を通じ、実践力を身につけるよう努めている。	ヒヤリはっと報告書や事故報告書の記録を参考に、月1回の隣接施設との合同事故対策会議で改善策を検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。職員は救急蘇生法やAED講習を毎年受講し、勉強会を行い、実践力を身につけている。ストレッチャーでの運び出しの訓練なども行っている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、隣接施設と合同で、年2回日中・夜間想定での避難訓練、消火器の使用での消火訓練を行い、その都度マニュアルの見直しをしている。法人が地域の避難場所になっており、地域との協力体制も築いている。	年3回、法人施設と合同で昼夜を含めた火災避難訓練を行っている。豪雨による災害時は、隣接施設が地域の避難場所となっており、地域との協力体制を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の気持ちになって接するように心掛け、馴染みの関係を築きつつも、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行うよう努めている。不適切な対応があれば、職員同士で注意し、リーダー・副主任が指導をしている。	接遇の研修があり、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしており、スピーチロックなど不適切な対応があったときには管理者やリーダーが指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、一人ひとりに合ったコミュニケーションのとり方を見極め行うことで、本人の思いや希望を表したり、自己決定ができるような支援に努めている。1対1であれば、口を開かれる方もいらっしゃるの、日中・夜間、可能な限り話す時間を持つよう心掛けています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務等を優先するのではなく、常に寄り添い、見守りをしつつ、利用者の思いや希望を汲み取り、一人ひとりが無理せずペースを崩すことなく1日を過ごせるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや着替えは自由にしていただいているが、組み合わせが不自然なものや季節に合わないものを身に着けていらっしゃる時には、一人ひとりに応じた声かけを行い、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。定期的な美容院への連出しや行事(誕生日会や祭り)や外出時の化粧の見守りを行い、年齢を問わずおしゃれができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が三食とも一緒に調理し、同じテーブルで会話をしながら食事を楽しめるよう支援している。調理・配膳・食事の声かけ・後片付けは個々の能力に応じ分担し、参加していただいている。献立や食材について、本人や家族の希望を取り入れたり、施設の畑で採れた旬の野菜を使った献立の提供をしたり、本人用の茶碗・湯呑み・箸を使用したり、月1回の外食を行うなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	三食とも事業所で職員と利用者が一緒に調理や片づけをし、同じものを一緒に食べながら会話し、利用者が食事が楽しめるように支援している。献立は職員が利用者の好みを参考に立てて、隣接施設の管理栄養士の指導を受けている。茶碗や湯飲み、箸は本人用の物を使用し、本人の状態に合わせた形状にしている。必要があれば法人からソフト食の提供を受けている。月1回外食の日や、蒸しパンやホットケーキなどのお菓子作りを楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の栄養士が立てた献立を参考に献立を立てたり、必要に応じ、栄養士に相談をしたり、事業所では提供できない形態の食事の提供をしてもらうこともある。食事や水分摂取量について個人記録に残し、1日の状態の把握に努め、摂取量が少ない利用者には形態を変えたり、栄養機能食品、スポーツドリンクを用いる等して状態に応じた支援をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態・能力に応じた声かけ・見守りで口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、定期的な歯ブラシ、コップの消毒・歯ブラシの交換等を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また訪問歯科診療を利用し、治療や口腔ケアの実施・相談等をして、指導をしていただき、口腔内の状態把握に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用や日々の状況等から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行うことで、トイレでの排泄ができるようになったり、紙パンツから布パンツに移行できた利用者もいる。誘導や失敗時の声かけには、本人のプライドに配慮して行うよう努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握して、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、日々の排便状況を把握している。繊維質の多い食材を使用した食事、朝食やおやつ時に乳製品や寒天の摂取、毎食時や1日2回の茶話会や入浴後に水分補給を促す他に、散歩や掃除等で体を動かすなど予防に向けての取り組みを行っている。必要に応じ、主治医に相談し指示をもらい対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	安眠に繋がるように毎日夕食後に入浴ができるよう準備し、平均2日に1回のペースで入浴ができている。毎日の入浴希望がある利用者には可能な範囲での入浴ができたり、入浴拒否がある利用者には、声かけの工夫やシャワー浴や昼間の入浴を行うなど、個々に応じた支援をしている。入浴剤使用や柚子湯の提供等で入浴を楽しむ工夫もしている。	毎日19時から20時まで入浴でき、夕食後の入浴で安眠につながるよう支援している。入浴をしたくない利用者には職員を代えて声かけをしたり、昼間の入浴、シャワー浴にするなどの工夫をしている。状態に合わせて入浴剤の使用や柚子湯などを楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの1日のペースを把握して、安心して休息や睡眠が取れるよう支援している。夜間入浴の実施で安眠に繋げているが、夜間不安な訴えがあり、入床できない利用者には、温かい飲み物を提供したり、話を聴いたりして不安を取り除き、安心して入床していただけるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬については、個人毎のファイルに説明書を綴じ、職員全員が随時確認し、把握できるようにしている。薬は職員で管理し、服薬は最低2名の職員が関わり、手渡し・服薬確認を行い、飲み忘れや誤薬の防止に努めている。月1回の協力医の往診や状態変化等で薬の変更、追加があれば、申し送り帳に記入し情報の共有を図り、家族には必ずその都度報告し了解を得ている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、残存能力を把握して、一人ひとりが活躍できる場面をたくさん提供し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	食事の準備や片づけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、布団干し、掃除、菜園づくりなど一人ひとりの活躍できる場面づくりや、人形作り、針仕事、貼り絵、生け花、読書、懐メロなどの楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物・月1回の外食・季節ごとの行事での外出のほかに、職員と1対1での外出支援を月に1、2回行い、コーヒーを飲んだり、季節の花を見に行くなどして、戸外に出かけられるよう支援に努めている。市内にある宅老所から隔週迎えが来て出かける利用者、家族同伴にて遠方の親戚宅へ行かれる利用者等、地域・家族の協力のもと外出しているが、全員の希望に沿えるような外出支援とまではいえない現状にある。	利用者は事業所周辺の散歩や隣接病院内の店舗に買い物に行っている他、法人内事業所の文化祭やデイサービスのボランティア行事、納涼まつりなどに参加している。月1回の外食や職員と1対1での外出、季節に合わせて初詣や家族と一緒にの花見、梅見ドライブ、紫陽花寺、リンゴ狩り、紅葉狩り、荒神様のまつりなどに出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておきたい、または持たしておきたいという本人や家族の希望により、所持していただき、買い物時などでは、本人が支払いできるよう声かけ・見守りを行い、満足感や達成感を感じていただけるような支援をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への電話の希望には、職員が支援のもとかけている。本人に届いた郵便物を手渡したり、手紙と一緒に敷地内にあるポストまで投函に行ったり、外部との交流が途切れないよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、明るさや室内温度・湿度や換気等に常に配慮している。壁面には利用者の作品や季節の飾り付けを行い、玄関やテーブル上には季節の花の生花を置き、季節感のある落ち着いた雰囲気のある空間作りに心掛けている。1階ユニットの台所は対面式になっており、利用者と会話をしながら食事準備ができ、生活感を感じていただきながら過ごせるよう支援している。	共用の空間には随所に花が飾ってある。台所は食堂と居間が対面式になっており、食事の支度の音や匂いから心地よい生活感を感じることができる。テレビやソファが配置しており、思い思いにくつろげるスペースがある。壁面には利用者の作品や季節の飾りが飾っており、ウッドデッキには三つ葉や小ネギ、花などを植えたプランターが並んで、季節を感じることができ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の窓からは畑の野菜や花だんの花、近くの田園風景を見ることができる。食堂横の居間や廊下にソファや椅子・テーブルを設置してあるので、独りで雑誌や新聞を見たり、音楽鑑賞をしたり、利用者同士が自由に会話できる居場所づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅や入居前地で、これまで使っていた馴染みのあるものや、本人が大切にしている家族の写真・飾りもの等を置き、本人が安心して過ごせるよう支援している。	居室の外側に個別の洗面台があり、畳の部屋にはベット、布団、ダンス、テーブル、いす、位牌、本などを持ち込んでいる。各部屋にベランダがついていて、思い思いに洗濯物を干したり、布団を干したりできる。家族の写真、時計、本人の作品、ぬいぐるみ、鏡、花など好みのものが飾ってあり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間及び居室入口に手すりを取り付け施設全体が、バリアフリーになっているので、利用者が安全に移動することができる。利用者用エプロンの置き場所は目につきやすい場所にして自力で用意できるよう工夫している。 又、神棚に置く榊の花立や畑・植木鉢の水管理も手伝っていただいている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム山口あかり園

作成日：平成 25 年 5 月 17 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	様々な活動を通じて、地域との関係が深まるように取り組んでいるが、地域の一員としての日常的な交流が少ない。	日常的に施設に立ち寄ってもらえるような、地域と「寄り添う」関係作りを行う。	運営推進会議の内容をより充実させる。 地域で行われる行事や活動に積極的に参加する。 「介護教室」や「認知症予防教室」等を開催し、施設の専門性を地域に還元していく。	2年
2	35	事故発生時の対応について不安を感じている職員が多い。	全職員が、事故発生時の対応をスムーズに行えるようにする。	あらゆる事故を想定した事故対応の研修を行う。 マニュアルの見直しを行う。	半年
3	15	施設外研修会や山口市施設サービス部会等を通じて交流の機会はあるが、勤務体制上参加できない事も多く、他のグループホームとの情報交換や交流が少ない。	他の事業所と交流を持ち情報交換等を行うことによって、サービスの見直しや職員の資質の向上を図る。	法人内の系列事業所との連携を深める。 他事業所への見学の機会を設ける。 研修会等に参加できるように勤務の調整を行う。	1年
4	13	職員の補充は行ったが、夜勤2名(1ユニット1名)体制に移行したことにより、職員への負担が増している部分がある。	職員の負担が軽減できるように、就業環境を整備する。	業務内容や勤務シフト等の見直しを行う。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。